

かかわりあ みんなのうかい



教職員定数の抜本的改善を！

教育の無償化推進を！

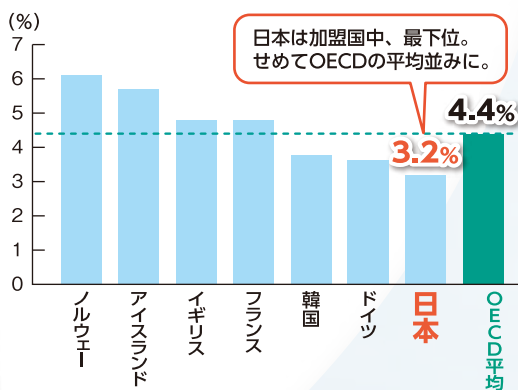
教育予算の増額を！

お金の心配なく安心して学びたい
みんなが「わかって楽しい」、安心して通える学校に
教職員の長時間過密労働の解決を

教育予算をOECD諸国並みに 増やせば、可能です

大企業と富裕層に応分の負担を求めることにより、教育に対する公財政支出（国と地方の合計額）の対GDP比をOECD加盟国の平均並みにすることは可能です。その予算があれば、幼稚園から大学までの教育無償化、給付奨学金の拡充、すべての学校での30人学級実現、臨時教職員の正規化が可能になります。

公財政教育支出の対GDP比（2014年）



出典：「図表でみる教育：OECDインディケーター2017」



かがやけ！
みんなのえがお

教育予算の増額を！
教育の無償化推進を！
教職員定数の抜本的改善を！

文部科学大臣様

2019年度政府予算にむけた文部科学省概算要求に対する要請署名

子どものえがおがあふれ、豊かな学びができる学校は、私たちの願いです。幼児教育から大学教育まで、すべての子どもの学ぶ権利を保障し、国の責任で誰もがお金心配なく安心して学べる制度を確立することが求められています。そのため、2019年度政府予算に向けた文部科学省概算要求における大幅な予算増を求めます。

貧困と格差拡大が、子どもの安心のよりどころである家庭を直撃しています。教育の機会均等を保障し、教育の無償化をすすめるために、就学援助制度の充実と高校無償化の復活、高校生・大学生への給付制奨学金の拡充が求められています。

多くの地方自治体が、父母・保護者、地域住民、子どもや教職員の願いをもとに、小学校3年生以降への少人数学級の前進を独自にすすめています。それによって、子どもたちによりきめ細やかな対応やよりゆきとどいた教育ができるようになっていきます。すべての学校で少人数学級を実現するとともに、障害児学級・学校の教育条件を改善し、新たな教職員定数改善計画をすすめるべきです。それは、教職員の長時間過密労働を解消し、ゆきとどいた教育条件を整備するためにも不可欠の課題です。

東日本大震災・福島原発事故から7年が過ぎましたが、住民のくらしと学校の復旧はまだ十分とはいえません。被災地の声を真摯に受けとめ、子どもたちの命と安全を最優先にした計画的な予算措置と人員配置が必要です。

OECD諸国の中で最下位となっている公財政教育支出の対GDP比を、OECD諸国平均並みに引き上げることで、これらの課題を解決することができます。

以上のことから、2019年度政府予算にむけた文部科学省概算要求に、以下のことを盛り込むよう要請します。

記

1. 教育の機会均等を保障するために、教育条件整備をおこなうこと
 - ①国の責任で就学援助制度を拡充すること
 - ②必要とするすべての高校生・大学生に支給できるよう、給付制奨学金を拡充すること
 - ③高等学校等就学支援金制度の見直しにあたり、所得制限を撤廃し、公私ともに学費の無償化を前進させること
 - ④高額すぎる大学等の授業料を引き下げること
2. 国の責任で、小・中学校および高校の全学年で35人以下学級を実現するために、教職員定数を計画的に改善すること
3. 障害児学校の過大・過密の解消をはかり、障害児学級の定数改善をおこなうこと
4. 東日本大震災・福島原発事故や自然災害などの被災地における子どもを守るため、学校と地域の復旧・復興をすすめること

氏名	住所

*上記個人情報は、文科省へ提出する以外には使用しません

署名集約は2018年7月20日です